

お客様に良く聞かれる質問の一つが“社員の結婚式にどんな装いをすれば良いのか分からない”や“知り合いの会社の式典に招待してもらったけどどんな装いをしたら良いのか分からない”など、フォーマルな装いにどのように対応すれば良いのか？という内容です。確かにフォーマルなシーンでどんな装いをすれば良いのか？迷ってしまいますよね。

日本で考えられる最もフォーマルな場面といえば、国賓との晩餐会や宮中での各種式典。しかし、これらは極めて限られた環境の中のイベントで、一般人が関わりを持つこと自体が稀です。では、私達のごく身近で発生する冠婚葬祭や会社の式典、或いはドレスアップを楽しむパーティといったフォーマルについてどのような装いをすれば良いのでしょうか？

フォーマルウェアを着る唯一無二の理由は“正しい装いをして周囲の人々に不快感を与えない。失礼な装いで正式な会合や式典に臨まない”という為で、決して自分のお洒落の為ではありません。又洋装は日本の物ではありませんので、日本人が勝手に日本風に解釈してはいけません。例えば、外国人女性が留袖で葬儀に参列したらどうでしょうか？外国人なら構わないとはいえないと思います。どんどん国際化が進み、日本的な解釈やルールでは世界に通用しなくなってきました。洋装がグローバルスタンダードとなった現在、ドレスコードを理解する重要性は高まっています。とりわけフォーマルウェアを正しく装うことが出来るかどうかは、経営者に課せられた課題であるとすら私は考えています。是非イルサルトのお客様には“世界に通用するフォーマルウェアの知識”を知って頂きたく、今回の特集をお届けさせて頂きたいと思ひます。

フォーマルウェアはその格式において3段階(第一礼装、準礼装、略礼装)に分かれますのでまずはこの表を見てください。この内容を理解して下さればフォーマルウェアの80%はマスターしたも同然です。

第一礼装 (モストフォーマル)	(昼夜問わず)	燕尾服
準礼装 (フォーマル)	昼間 (18 時まで) 夜間 (18 時以降)	モーニング ディナーズーツ (タキシード)
略礼装 (セミフォーマル)	昼間 (18 時まで) 昼夜問わず	ディレクターズスーツ ダークラウンジスーツ

ヨーロッパでは招待状にはっきりとドレスコードが明記されていて、第一礼装、準礼装の厳格な区別が存在します。現代においても厳密な意味でモストフォーマルと呼ぶことの出来る礼装は燕尾服だけしかなく、王室や皇室のある国々では昼夜を問わずモストフォーマルは燕尾服です。ただ日本では、燕尾服は皇室行事を除くと結婚式での新郎の装いくらいで、事実上存在しないに等しい礼装である為、準礼装がほぼ第一礼装として扱われています。日本では、男性の礼装において昼夜の区別や祝儀、不祝儀の明確な区別が存在しませんが、洋装の場合は行事が行われる時間(昼と夜)や儀式の格、会場、行事内容により装いに明確な区別が存在します。日本では燕尾服を着る機会はまずありませんので今回は説明を省かせて頂きますが、この燕尾服の略式がディナーズーツ(タキシード)、モーニングズーツの略式がディレクターズズーツです。順番に説明をしていきたいと思ひます。

## 昼間の準礼装 モーニングズーツ

着用機会	祝儀	結婚式、園遊会、開店披露、正式午餐会、正式茶会、竣工式、地鎮祭などの正式式典
	不祝儀	正式葬儀、告別式

ジャケット、チョッキ、縦縞パンツの三つ揃い。日本で唯一の礼服として昼夜を問わず着用されていましたが、名前の通り昼間の準礼装であり、夜間に着用するのは誤りです。現在では、結婚式の際の新郎や新郎の父などの場合を除くと、一般的にはあまり着用されるものではありませんので今回は紙面の都合で割愛をさせて頂きます。ただ、様々な細かいルールが存在しますので着用される場合は別途私までご相談ください。

## 夜間の準礼装 ディナーズーツ(タキシード)

着用機会	祝儀のみ	結婚披露宴、音楽会、観劇、舞踏会、準正式晩餐会
------	------	-------------------------

イギリスではディナーズーツ、アメリカではタキシードと呼ばれる夜間の祝儀専用のフォーマルウェアです。ジャケット、パンツ共に黒またはミッドナイトブルーの同じ生地で作られ、ジャケットの襟には拝絹(写真左)が施され、パンツの脇には側章(写真右)が付くなど燕尾服の意匠が簡略され踏襲しています。必ず黒の蝶ネクタイをすることから別名「ブラックタイ」と呼ばれています。夜間の第一礼装は燕尾服ですが事実上存在しない装いである為、一般の方々はディナーズーツ(タキシード)を夜間の第一礼装として考えて頂いても差支えありません。

